症例2

熊本労災病院　井上博幸

2017年5月25日

症例2

- 患　者：　40歳代　女性
- 家族歴：　特記事項なし
- 既往歴：　20歳代膵炎、2年前卵巣癌（明細胞癌）
- 現病歴：　卵巣癌術後の化学療法経過観察中、喉頭部の違和感あり外来受診。甲状腺にびまん性腫脹あり、エコーにて両葉に嚢胞様の低吸収域と微細石灰化を認めた。エコーガイド下に穿刺吸引細胞診施行。
- 検　体：　甲状腺穿刺吸引細胞診

選択肢

1. 慢性甲状腺炎
2. 腺腫様甲状腺腫
3. 濾胞性腫瘍
4. 乳頭癌
5. 髄様癌
6. 悪性リンパ腫
7. 卵巣癌の甲状腺転移

解答

1. 慢性甲状腺炎
2. 腺腫様甲状腺腫
3. 濾胞性腫瘍
4. 乳頭癌
5. 髄様癌
6. 悪性リンパ腫
7. 卵巣癌の甲状腺転移

症例2

- 患　者：　40歳代　女性
- 家族歴：　特記事項なし
- 既往歴：　20歳代膵炎、**2年前卵巣癌（明細胞癌）**
- 現病歴：　卵巣癌術後の化学療法経過観察中、喉頭部の違和感あり外来受診。甲状腺にびまん性腫脹あり、エコーにて両葉に嚢胞様の低吸収域と微細石灰化を認めた。エコーガイド下に穿刺吸引細胞診施行。
- 検　体：　甲状腺穿刺吸引細胞診

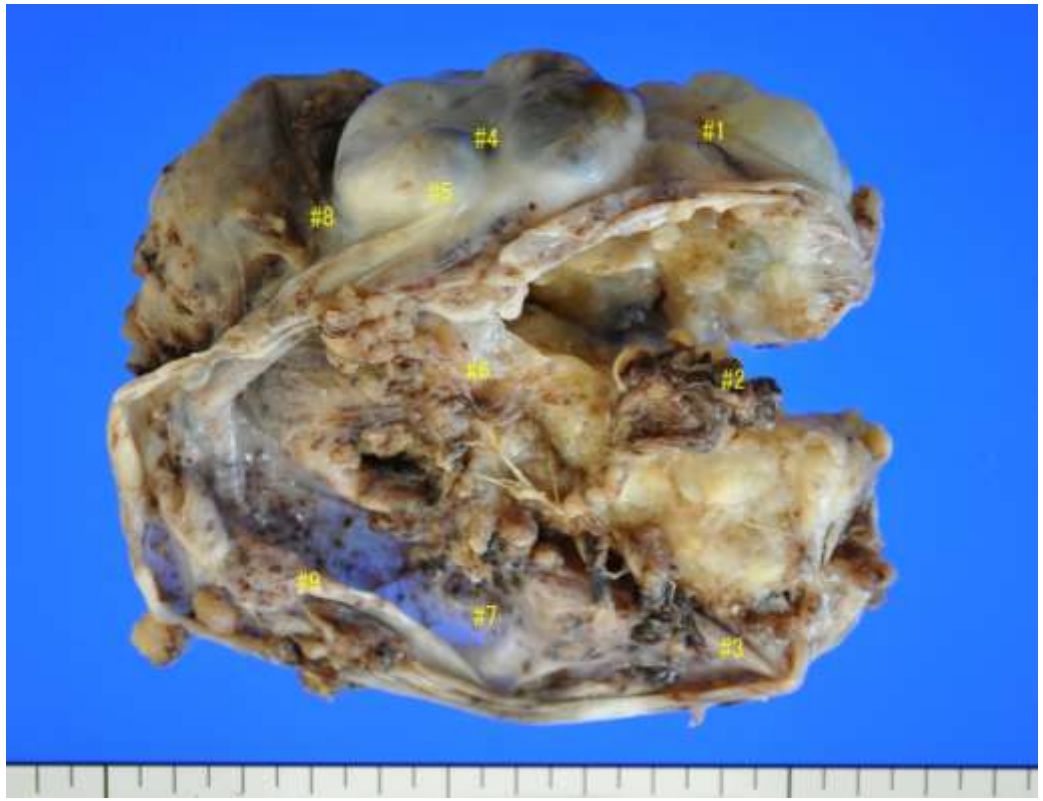
〈既往〉 卵巣明細胞癌

〈既往〉 卵巣明細胞癌　MRI

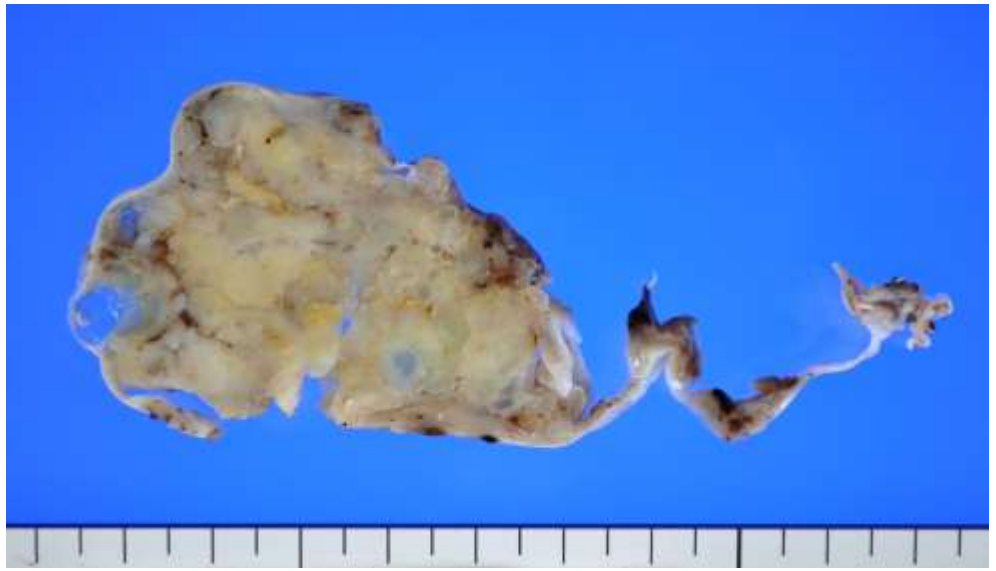




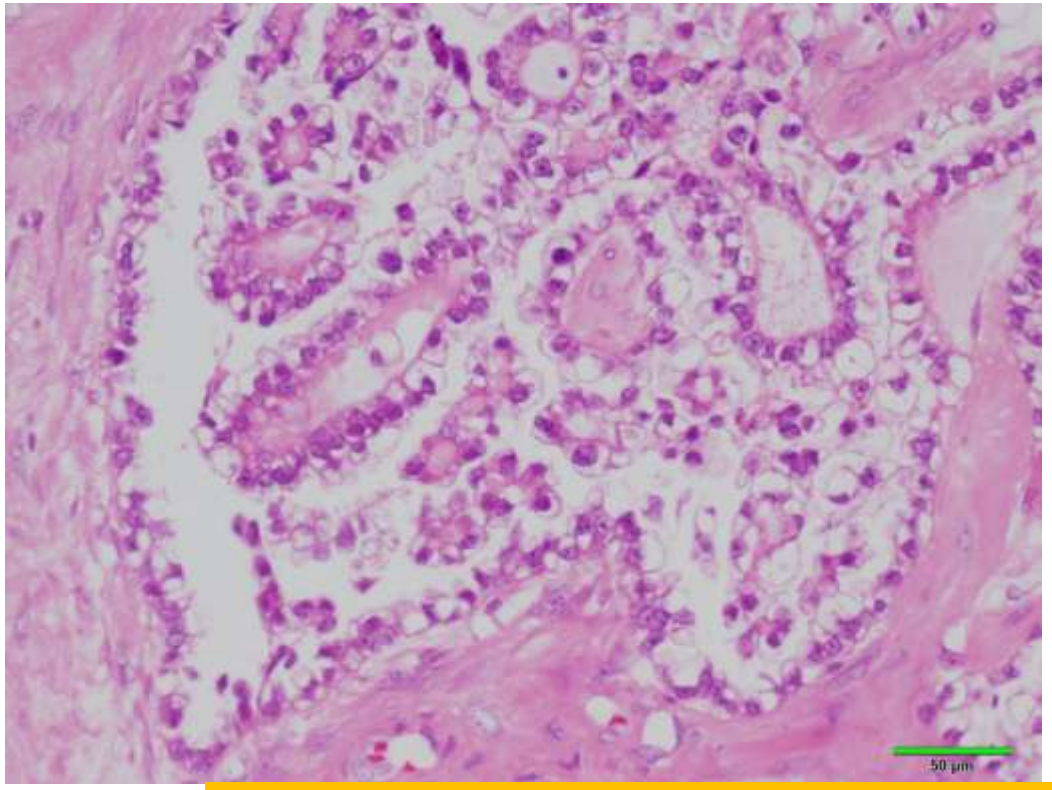
〈既往〉 卵巣明細胞癌　摘出臓器

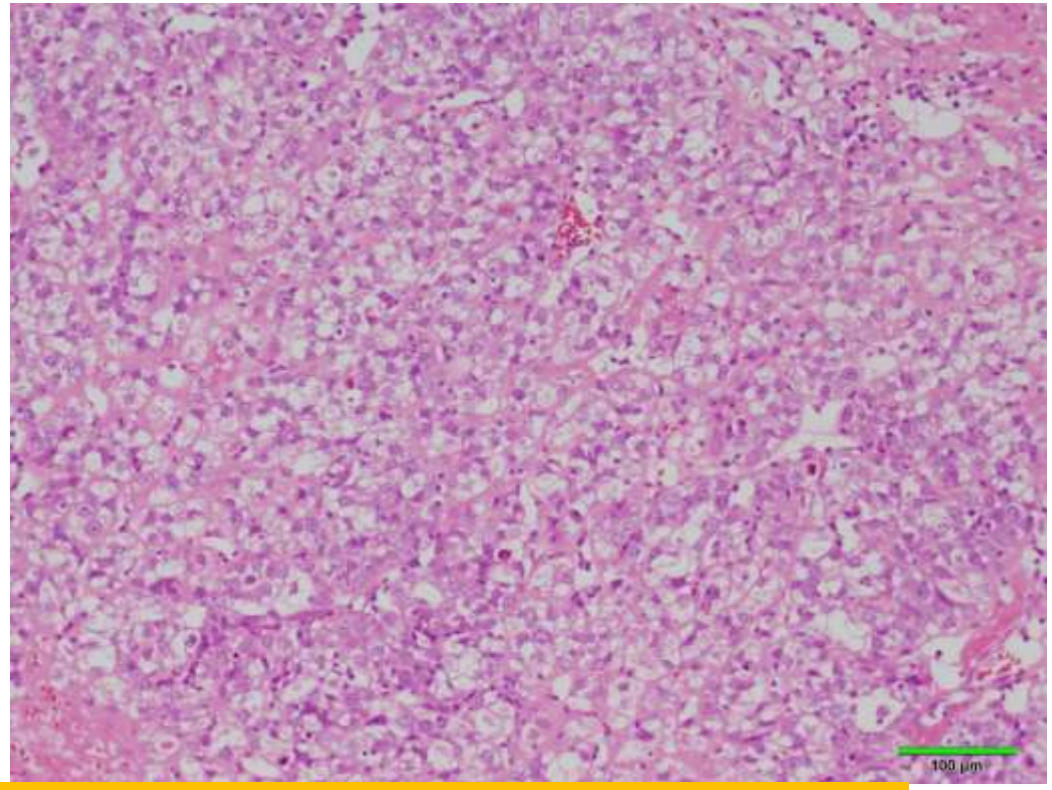


AT + BSO + partial omentectomy



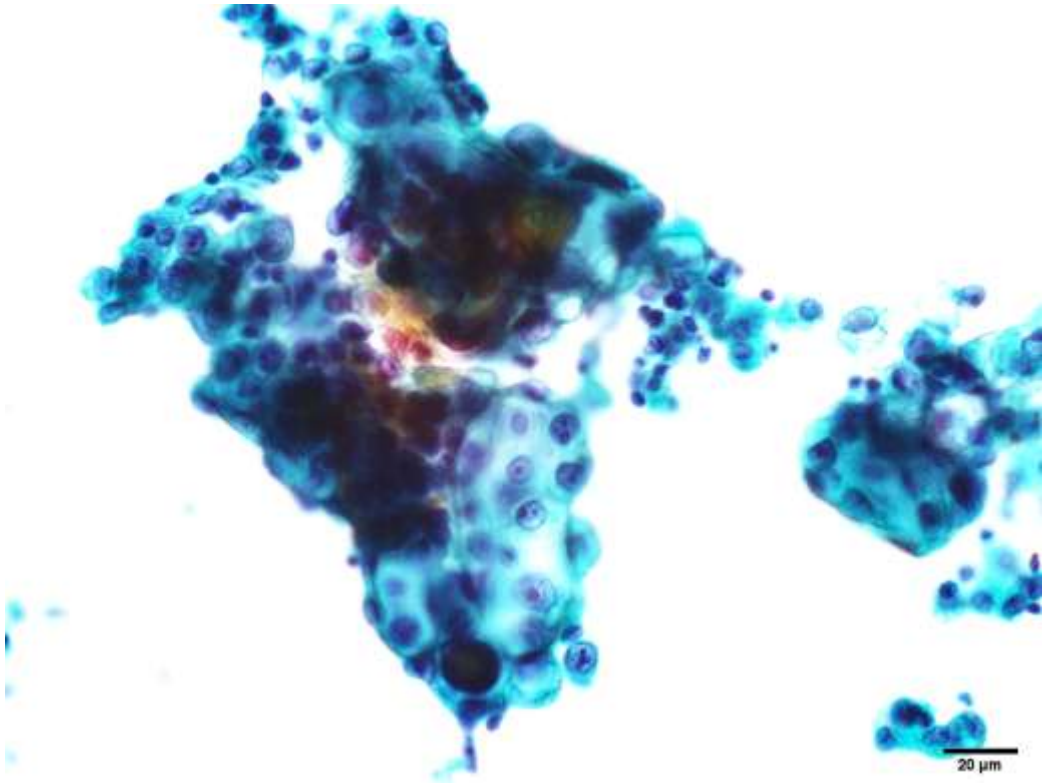
〈既往〉 卵巣明細胞癌　組織像HE

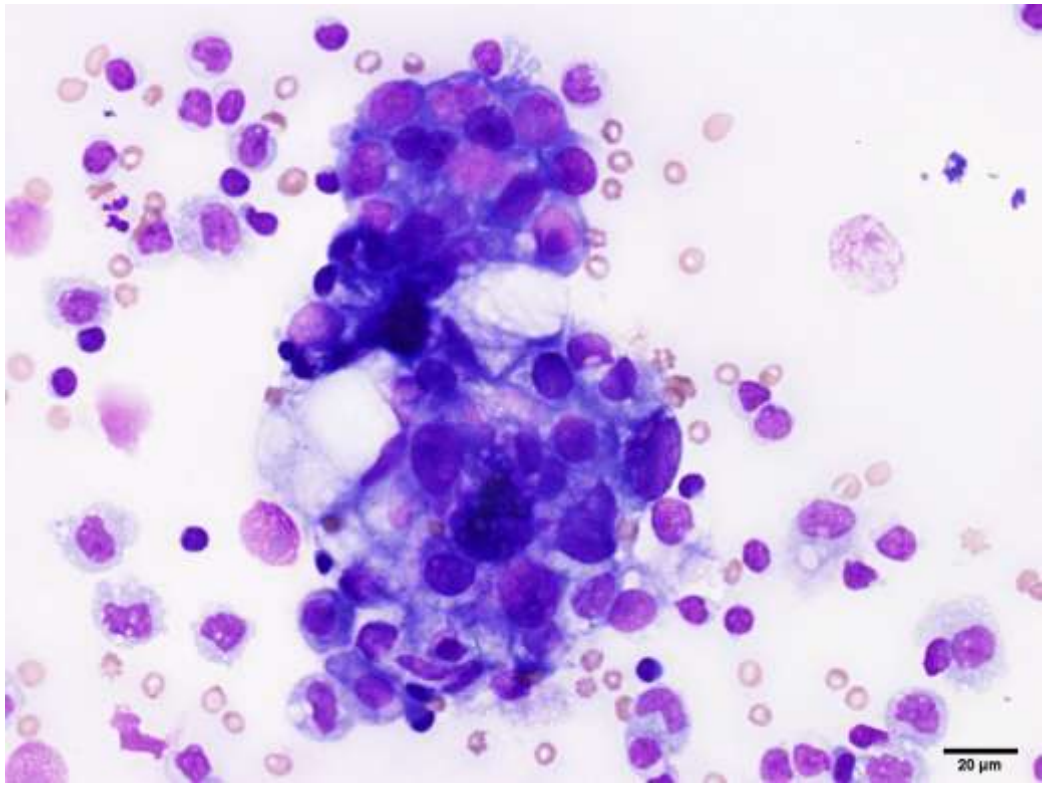




左卵巣）Clear cell carcinoma　後腹膜への浸潤あり ⇒StageⅢc　術中腹水細胞診（+）
右卵巣）Clear cell carcinoma, and endometriosis

〈既往〉 卵巣明細胞癌　術中腹水細胞診





〈既往〉 卵巣明細胞癌　術後治療・経過

- 化学療法　dose denseTC療法　パクリタキセル　カルボプラチン　6クール

↓

- 術後2カ月後のCTにて、腹部傍大動脈LNや骨盤内LNの増大あり、リンパ節転移を疑い、骨盤内リンパ節郭清（PLND）と部分傍大動脈リンパ節郭清（PaLND)を施行　follow up

↓

- 頸部の痛みにて来院，甲状腺腫大FNA施行　（出題）

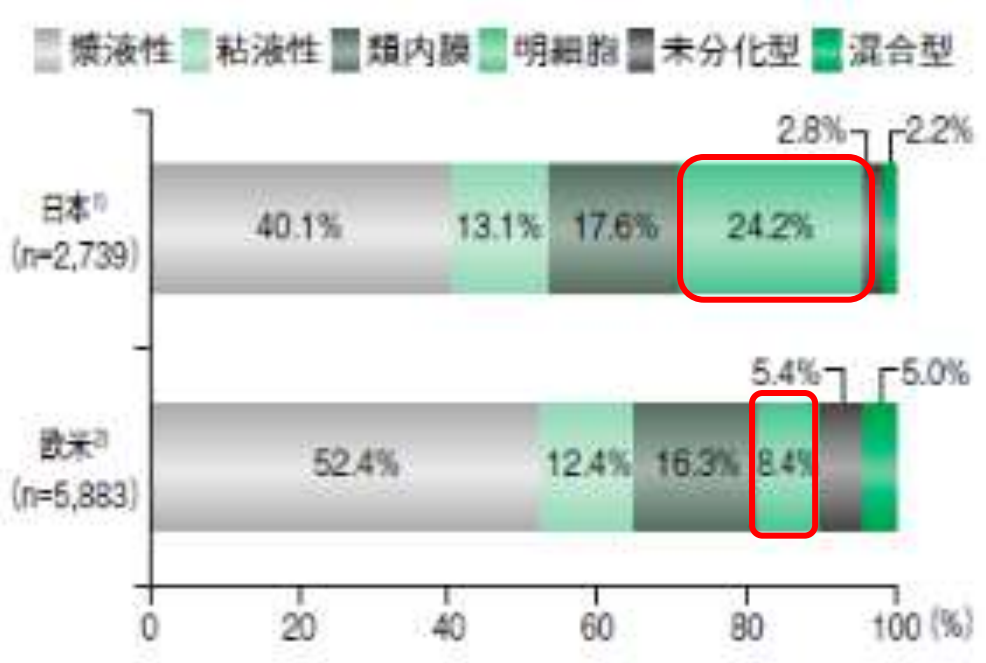
↓

- 心のう液：adenocarcinoma　胸水：negative

卵巣明細胞癌について

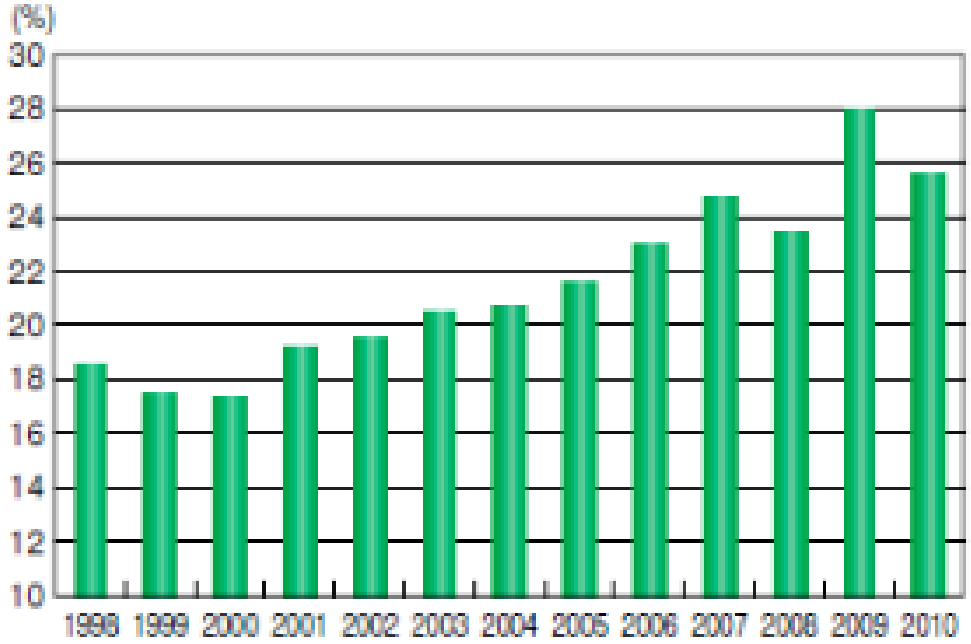
- 異型の強い淡明細胞やホブネイル状細胞、あるいは好酸性細胞によって構成される腫瘍
- 本邦では欧米に比べ発生頻度が高い
- 40歳から60歳代に多い
- 50～70%に子宮内膜症 endometriosis　が関連
- 化学療法の奏効率は極めて不良

卵巣明細胞癌の発生頻度



卵巣がんの組織型発生頻度

婦人科腫瘍委員会報告 2006年卵巣腫瘍患者年報. 日産婦誌 2008; 60 1052-1085)

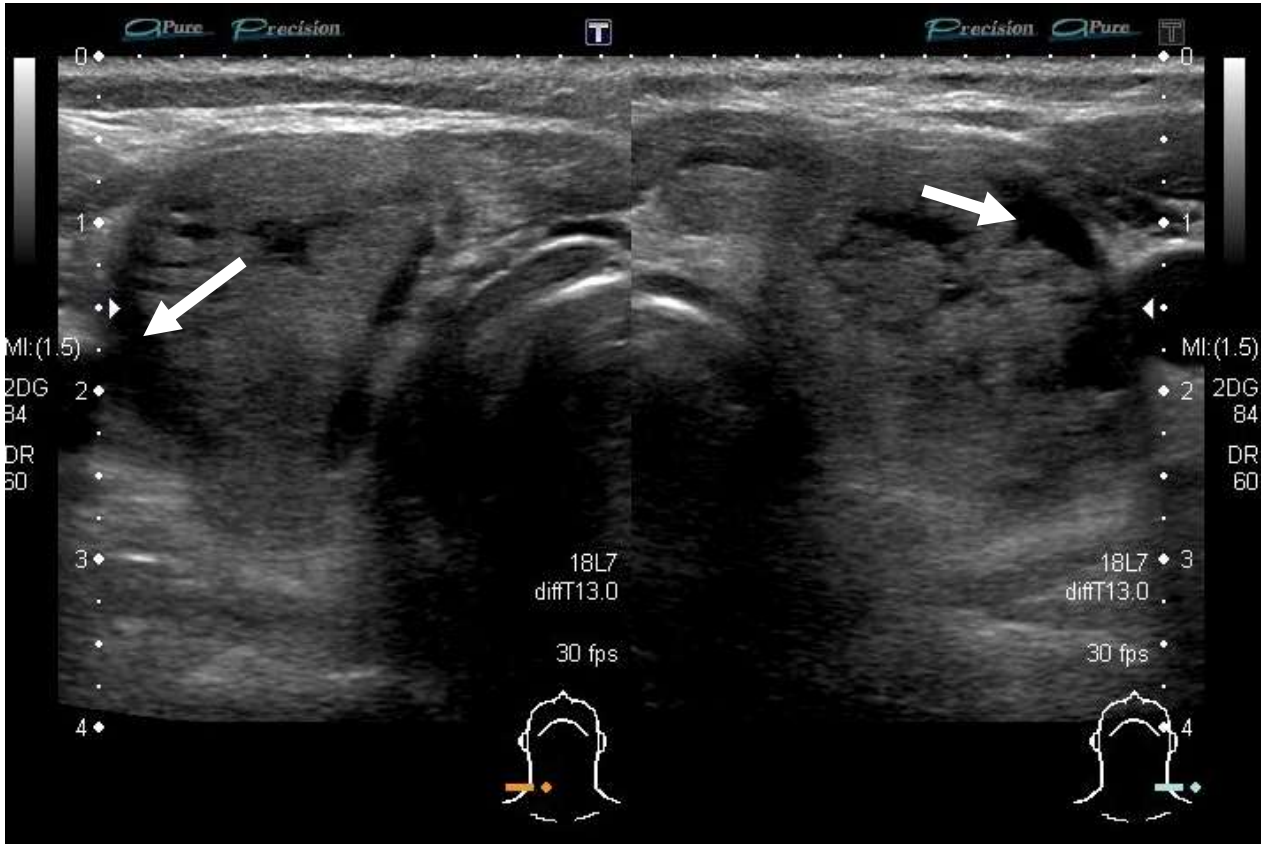


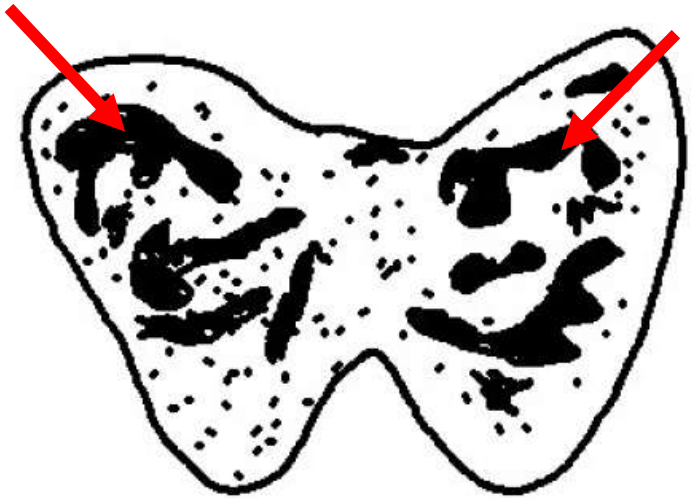
日本での上皮性卵巣がんにおける明細胞癌の発生頻度の年次推移

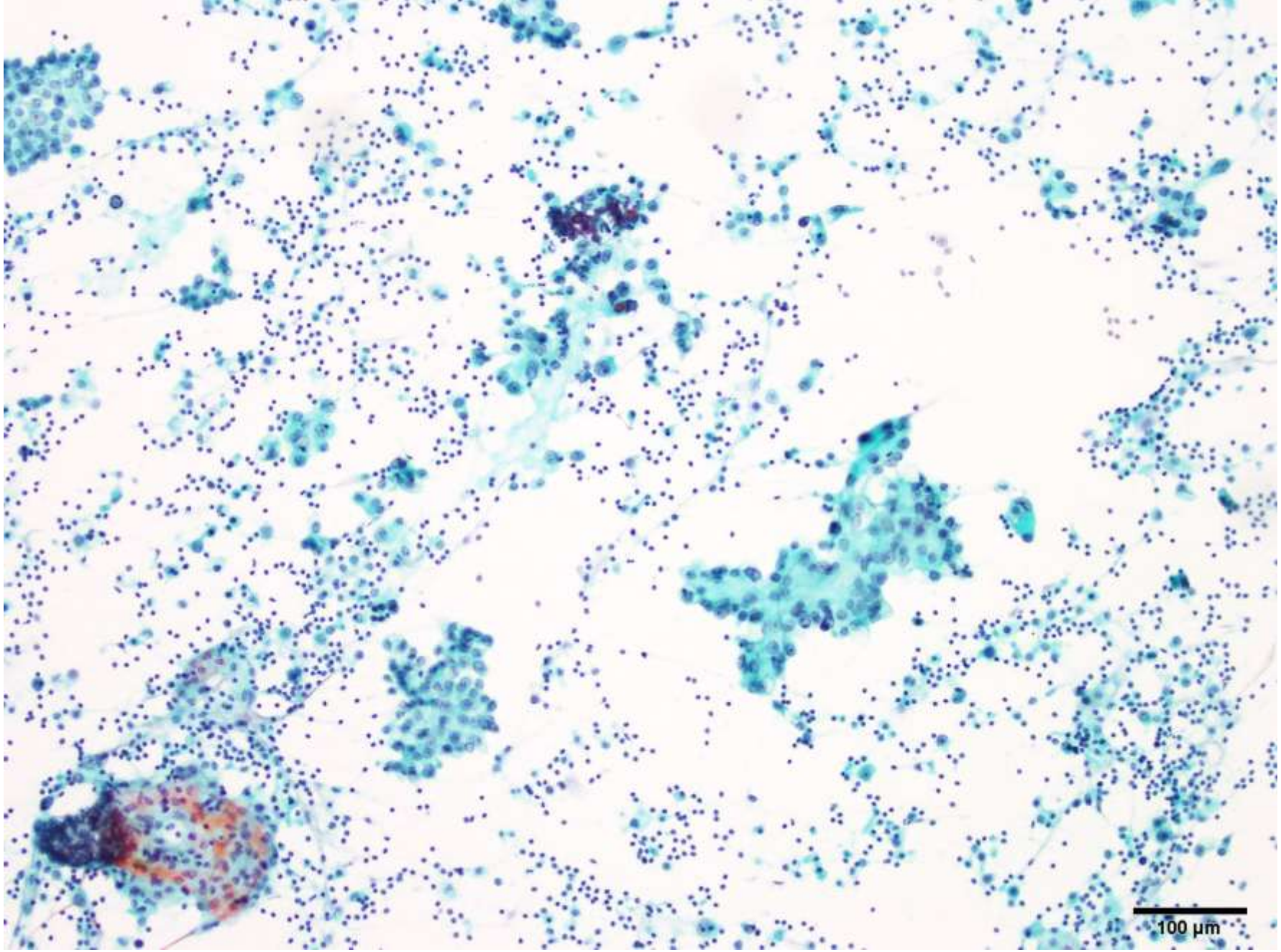
(Okamoto A et al, Int J Gynecol Cancer. 2014 Nov;24(9 Suppl 3)S20-5 より引用)

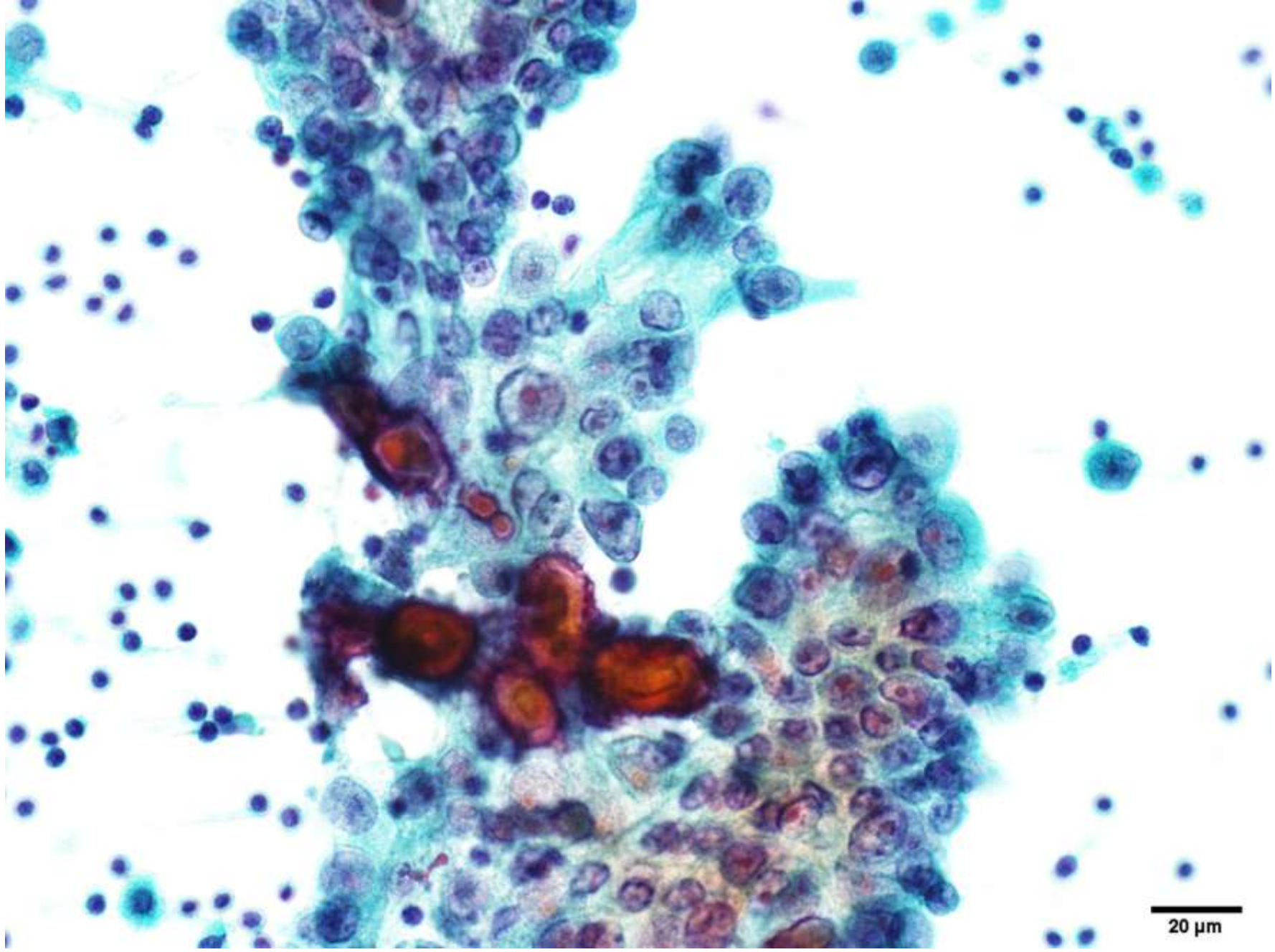
甲状腺穿刺細胞診

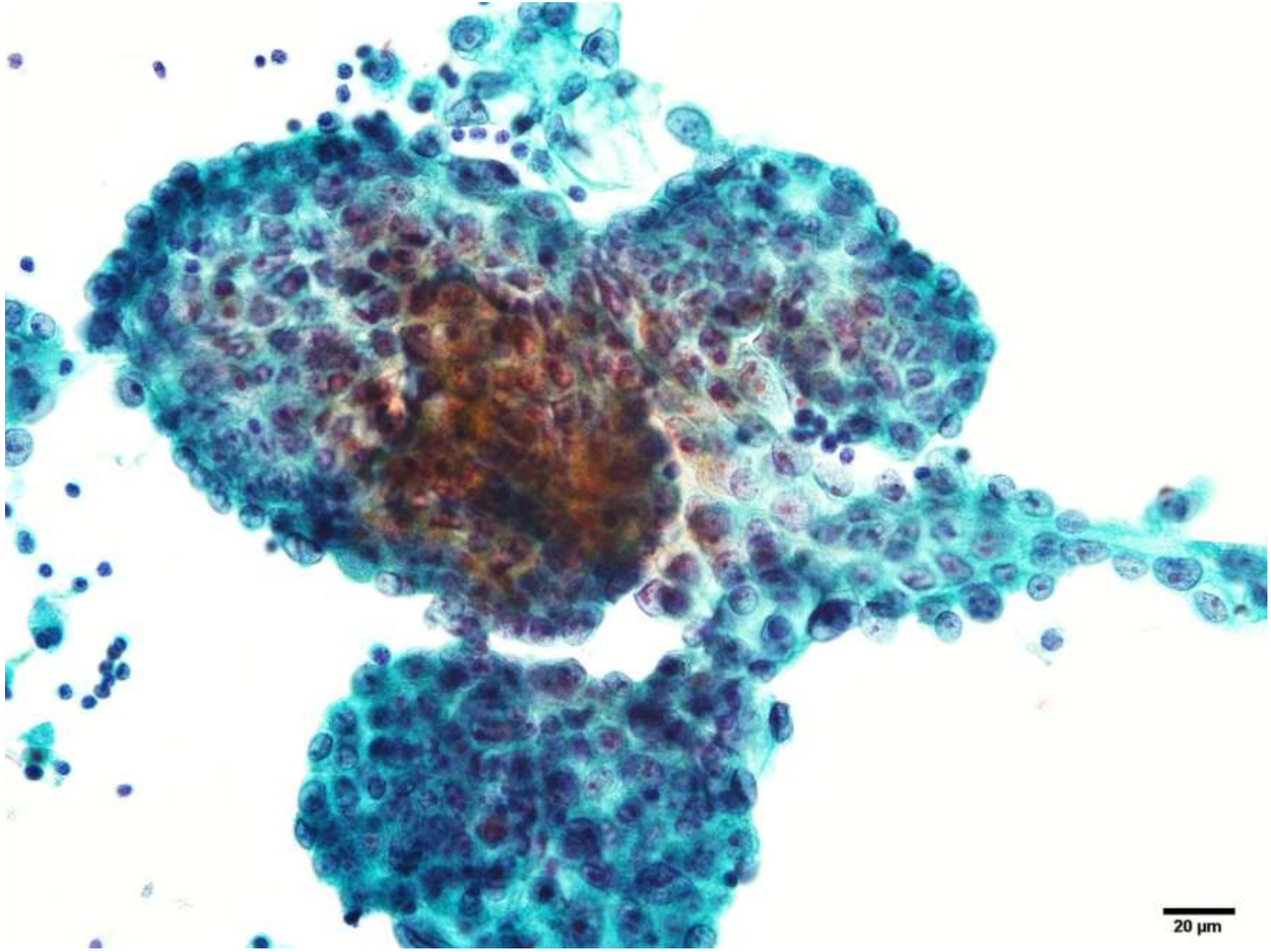
甲状腺エコー像

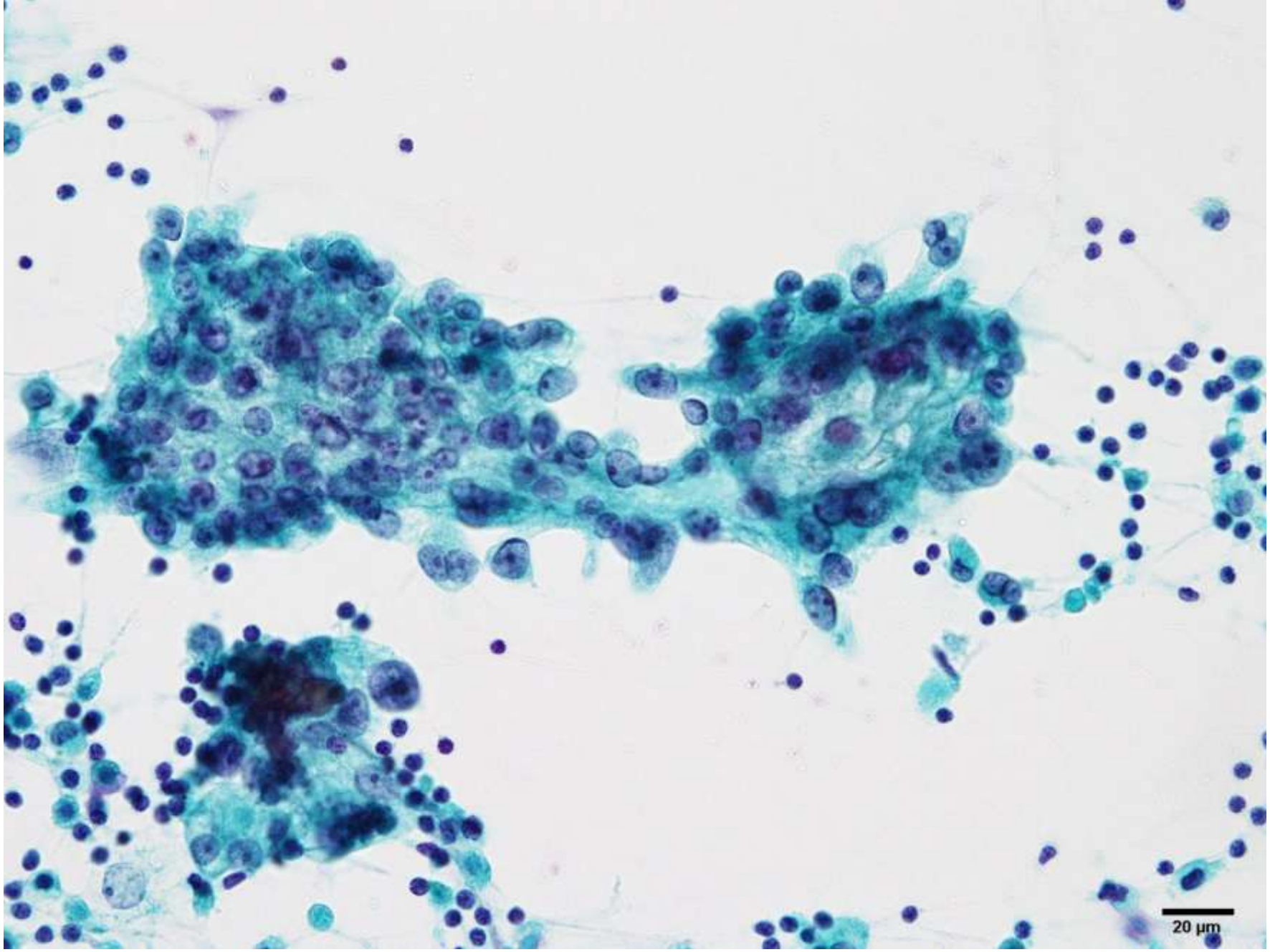


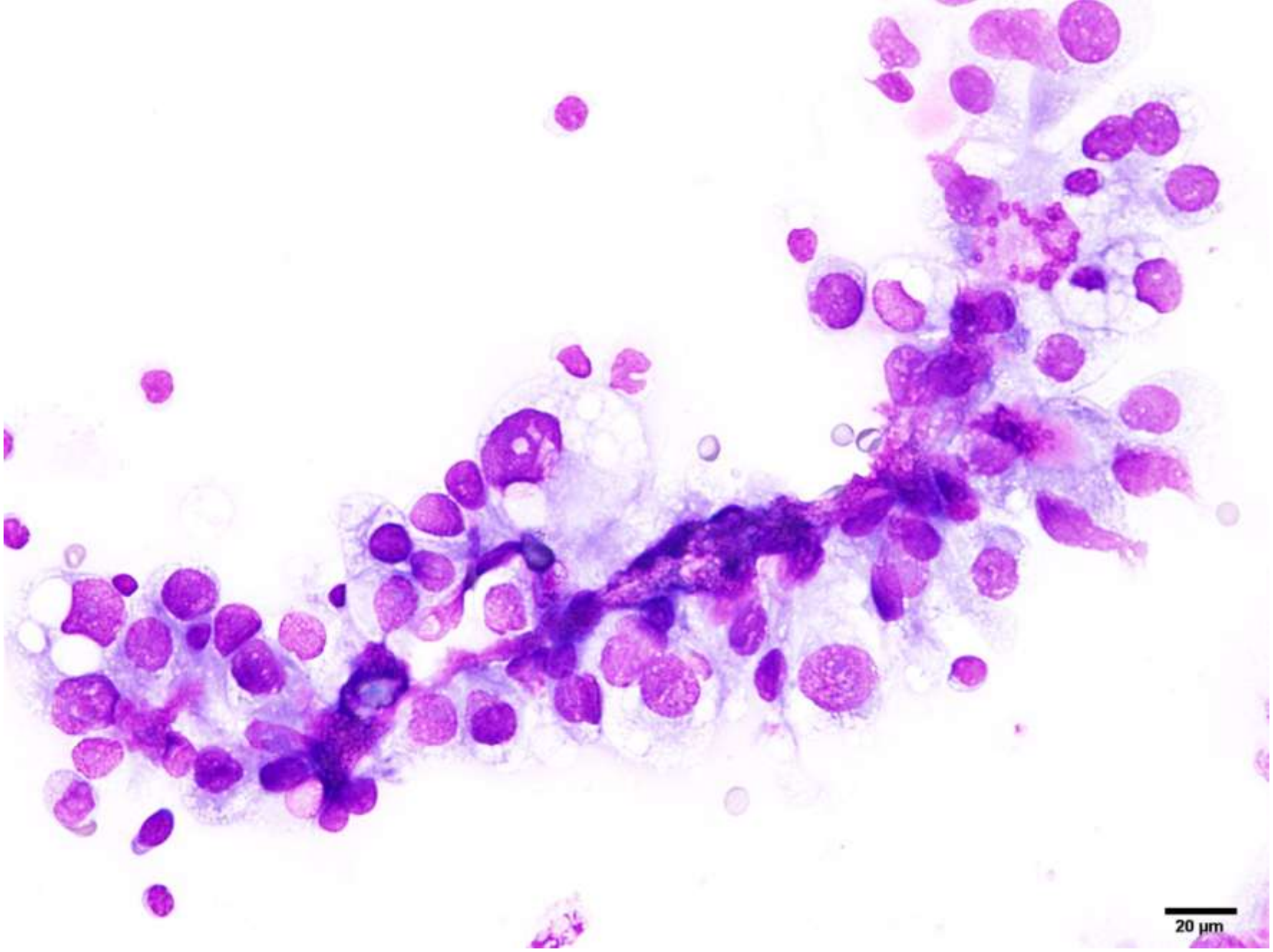


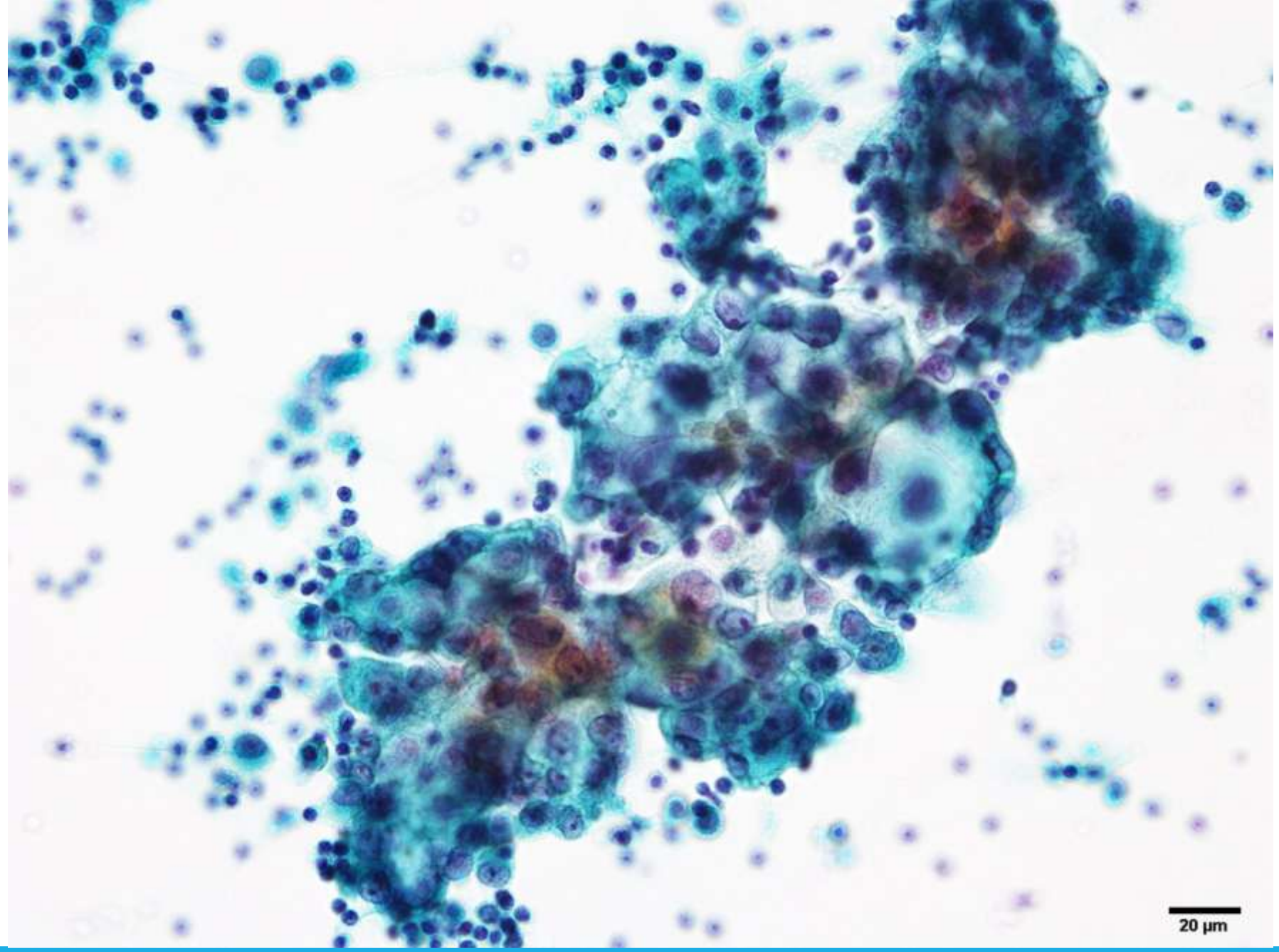

100 µm


20 µm


20 µm


20 µm

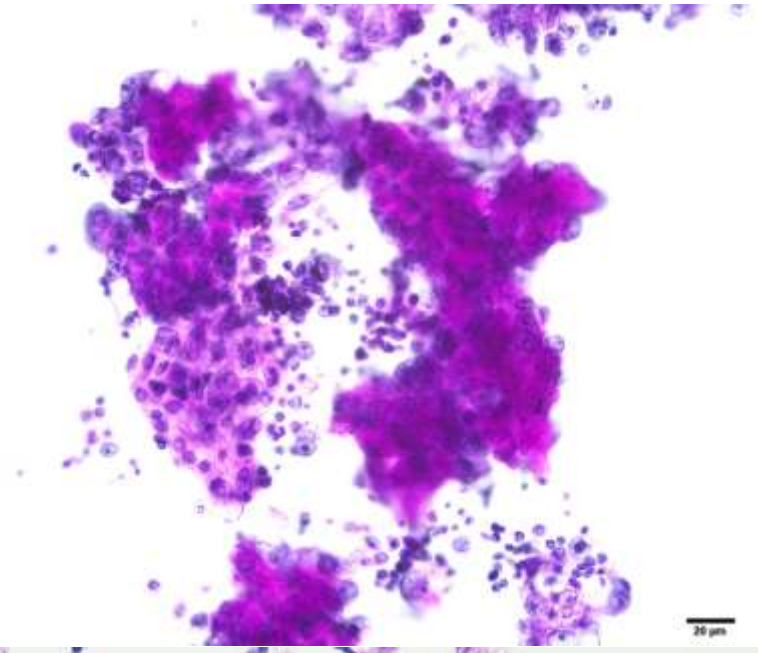

20 µm

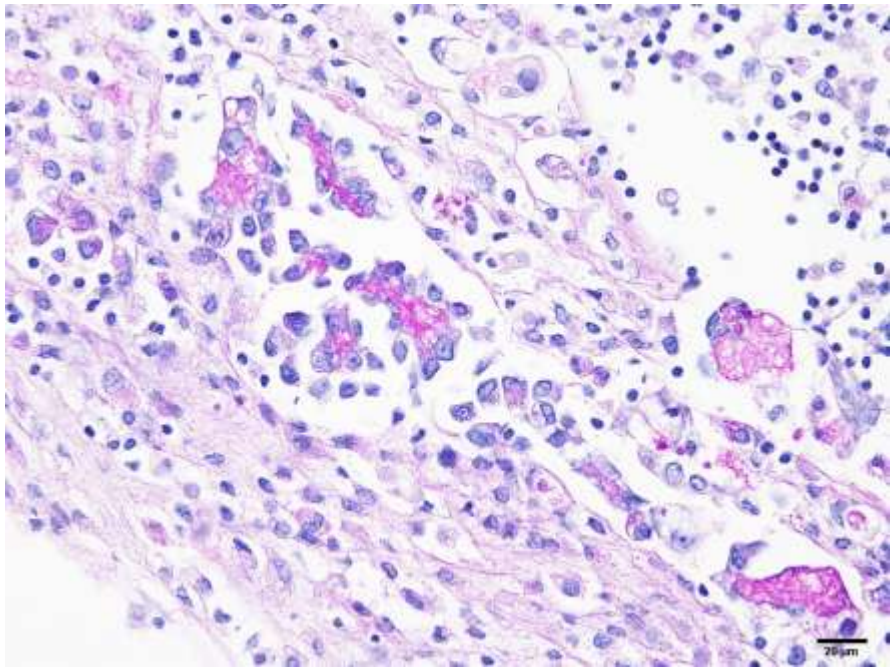

20 µm

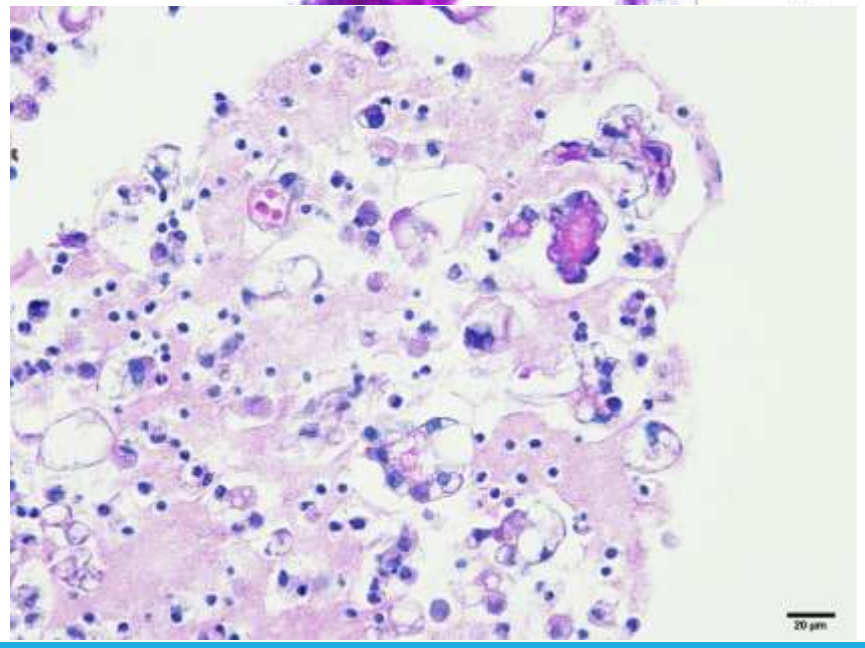

20 µm

細胞像まとめ

- リンパ球をともなって多くの上皮細胞集塊の出現
- 細胞集塊は不規則な乳頭状やミラーボール状
- pssamoma body を認める
- 核溝や核内細胞質封入体が確認できない
- 核が集塊の外側に突出して配列するホブネイル状集塊
- 集塊内部の基底膜様物質（メイギムザにて異染性）

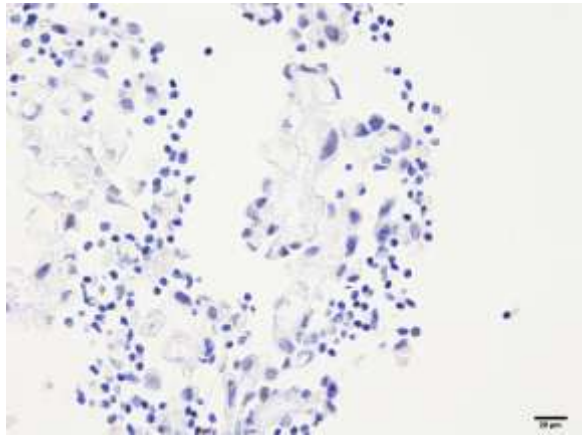




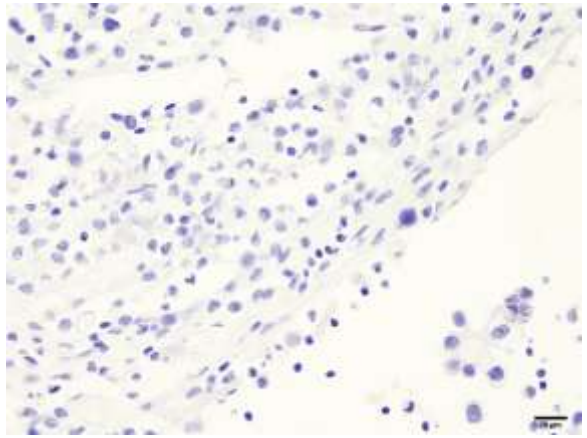


甲状腺FNA細胞診	甲状腺FNA セルブロック
腹水セルブロック	**PAS**

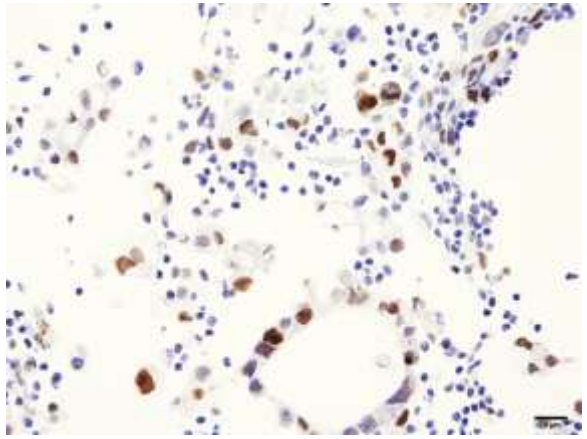
甲状腺FNA
セルブロックによる
免疫染色



TTF-1

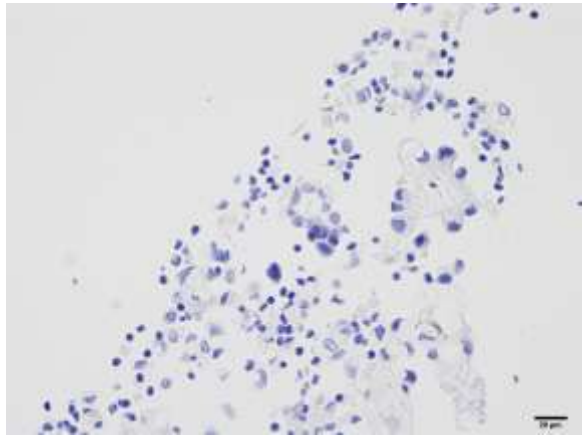


CD10

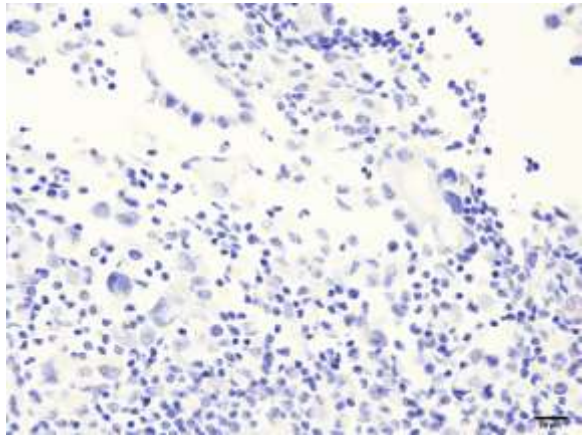


p53

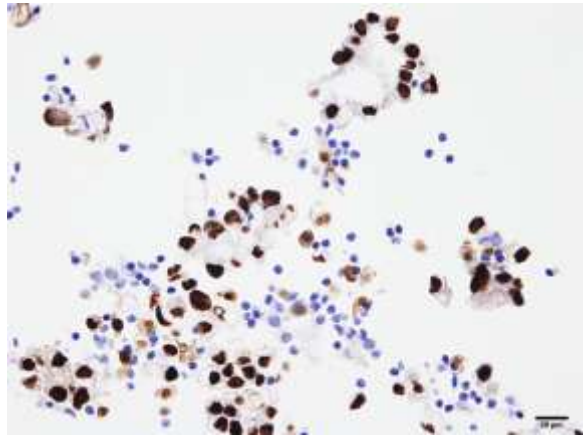
WT-1



ER



PAX8



本例甲状腺FNAと腹水中の卵巣明細胞癌のセルブロックによる免疫染色の比較

抗体	TTF-1	CD10	p53	WT-1	ER	PAX8
甲状腺FNA	-	-	+/-	-	-	+
腹水明細胞癌	NT	NT	+/-	-	-	+

抗サイログロブリン抗体　NT
HNF−1β　NT

甲状腺穿刺細胞診結果

【判定】 Positive

【推定病変】

Adenocarcinoma, compatible with metastasis of ovarian cancer

転移性甲状腺癌について

- 甲状腺悪性腫瘍に占める転移の割合は**1%未満**.
- 主に血行性で、原発巣としては**腎細胞癌、乳癌、肺癌、消化器癌**が多い.
- エコーで低エコー腫瘤もしくは橋本病類似のびまん性腫大を呈する.
- 転移性甲状腺腫瘍の頻度が少ない理由
  - 甲状腺内の豊富な動脈血流により腫瘍細胞が留まりにくいこと
  - 甲状腺内の高い酸素分圧とヨード濃度が腫瘍の生育を妨げる

転移性甲状腺癌の頻度

■転移性甲状腺癌の本邦報告例

原発	腎	肺	胃	乳腺	食道	結腸	直腸	子宮	卵巣	膵	皮膚	喉頭	胸腺腫	絨毛癌	原発不明
報告数	21	7	6	5	4	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1

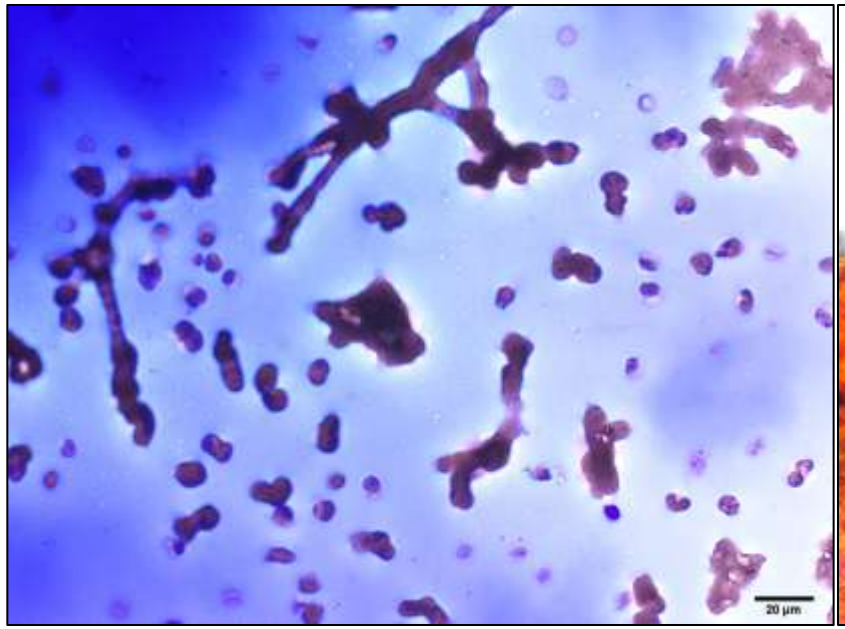
大塚健司ら「転移性甲状腺癌の1例と本邦報告例について」1994年より
転移性甲状腺癌の本邦報告例の一覧表集計

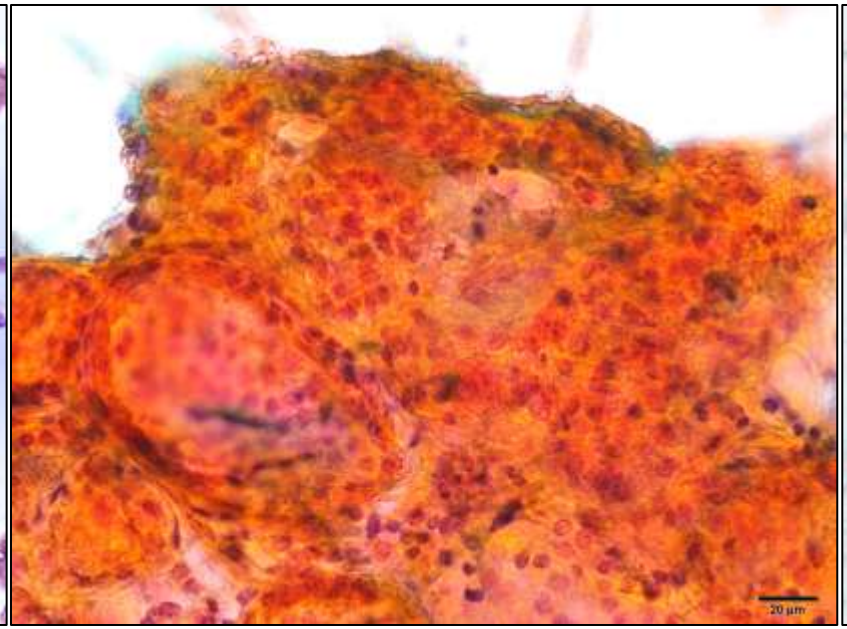
■剖検例における卵巣癌の甲状腺転移

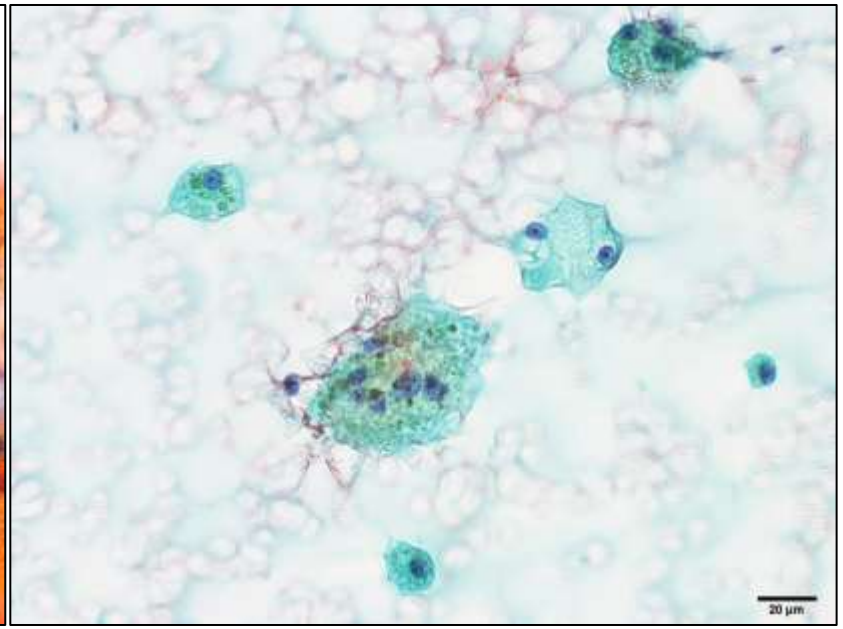
	剖検数	甲状腺転移	卵巣原発
Abramsら	1000	19	1
Mortensenら	467	18	1
Silverbergら	256	62	1

卵巣癌の遠隔転移して多いもの
肝臓、肺、骨、脳

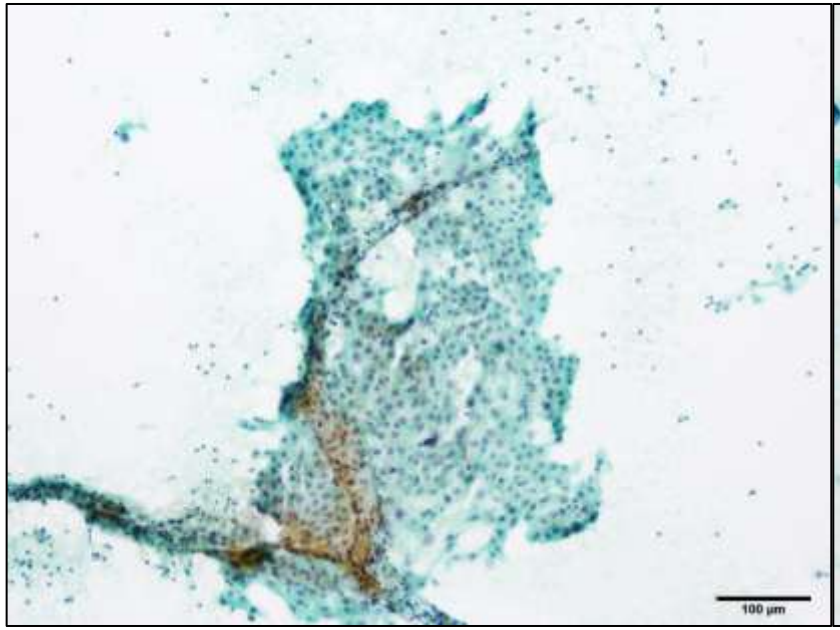
腺腫様甲状腺腫

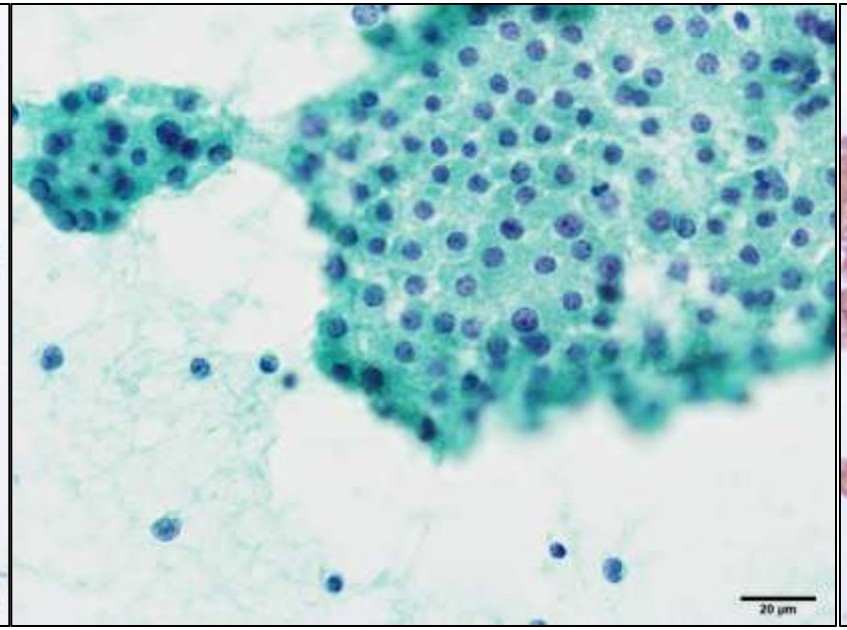


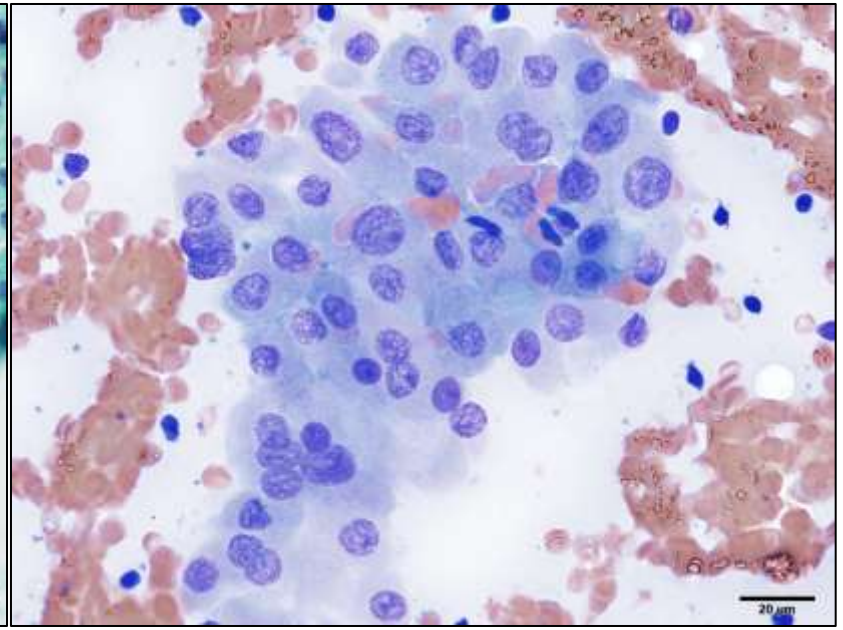




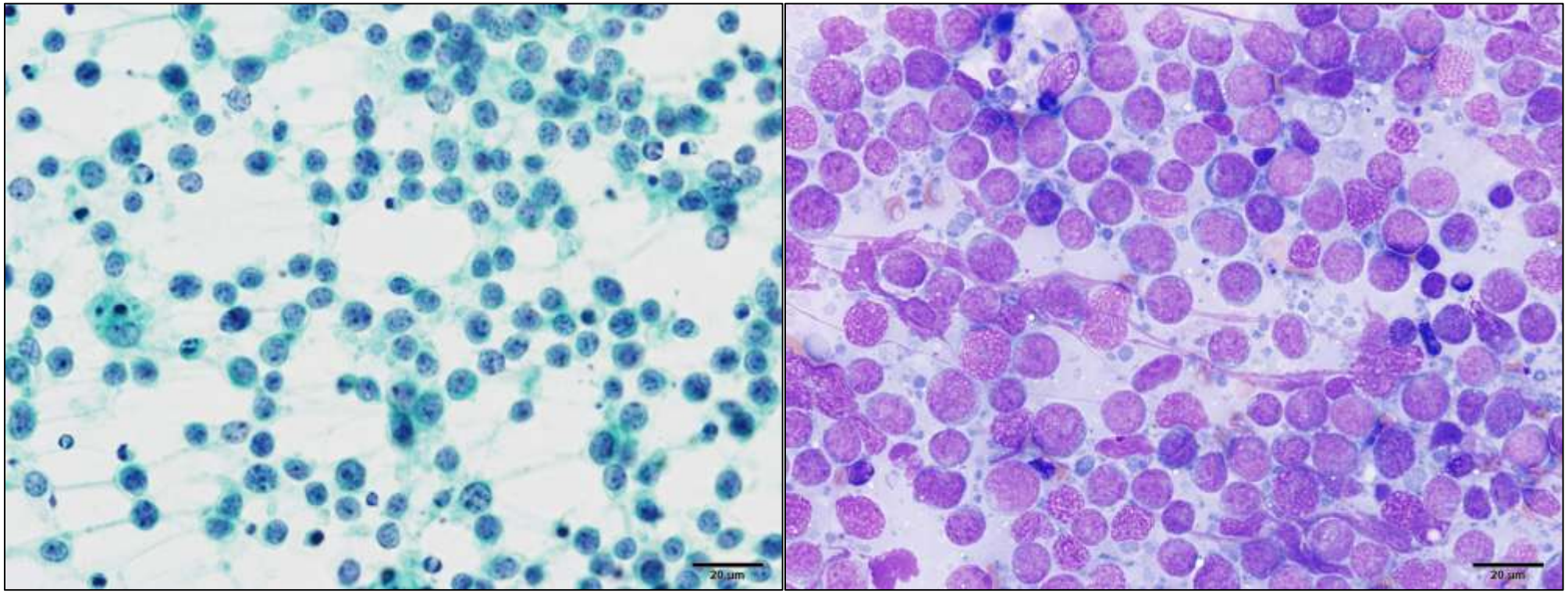
慢性甲状腺炎



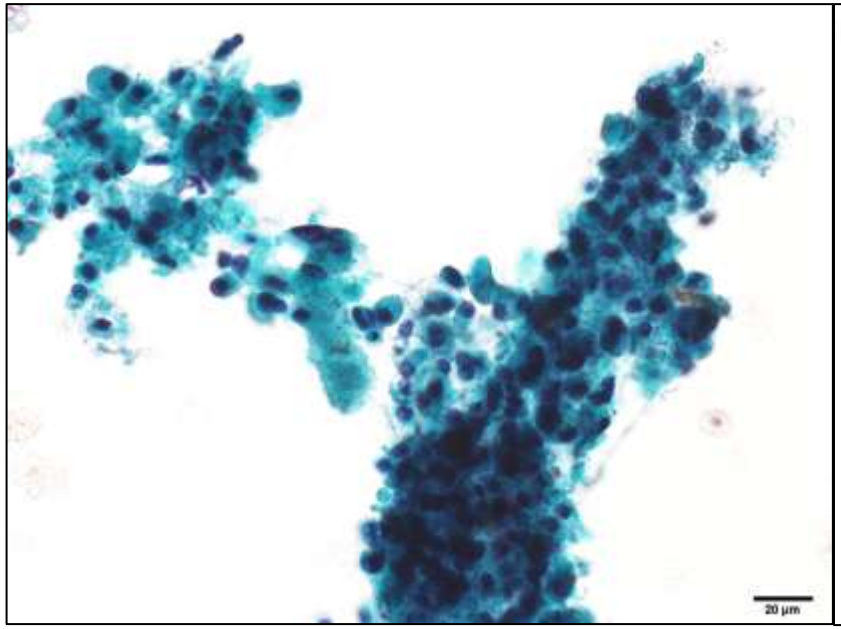


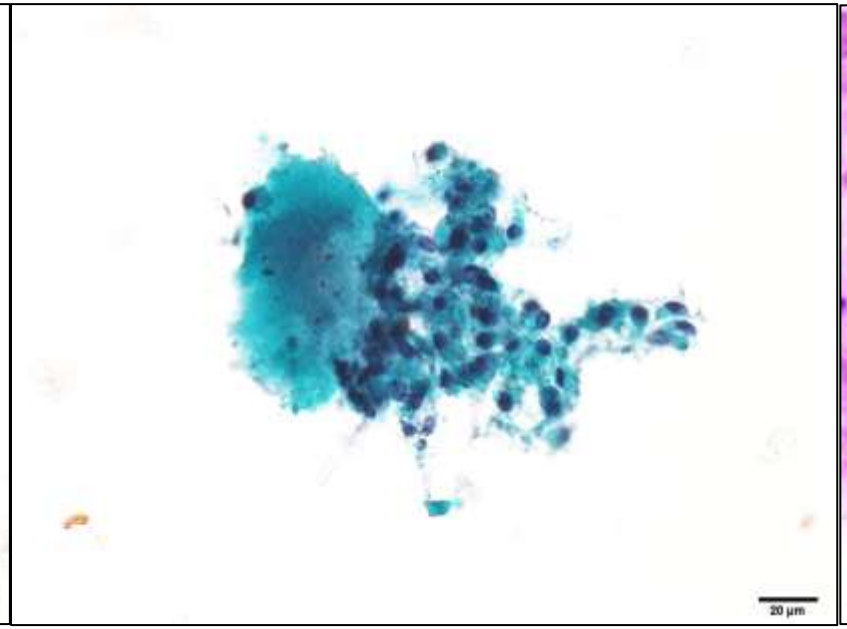


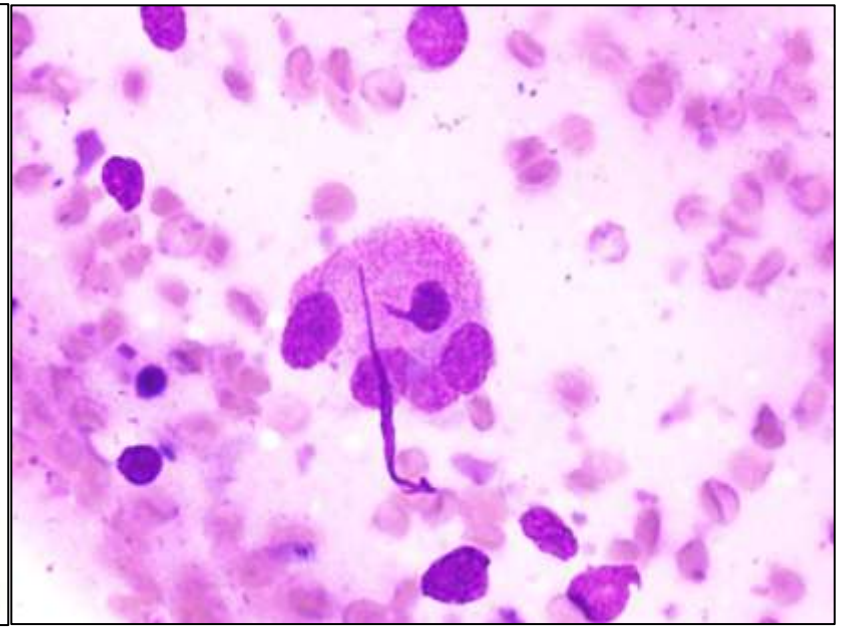
悪性リンパ腫



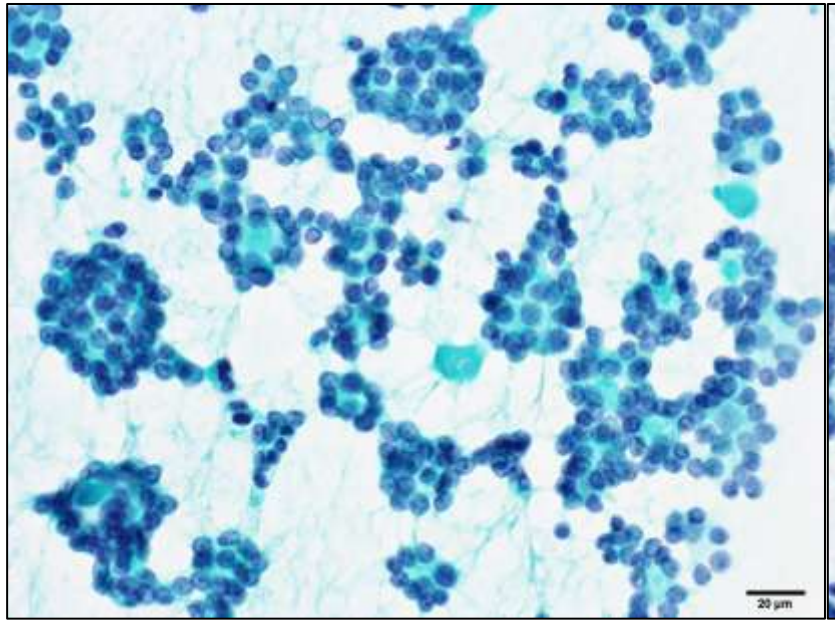
髄様癌

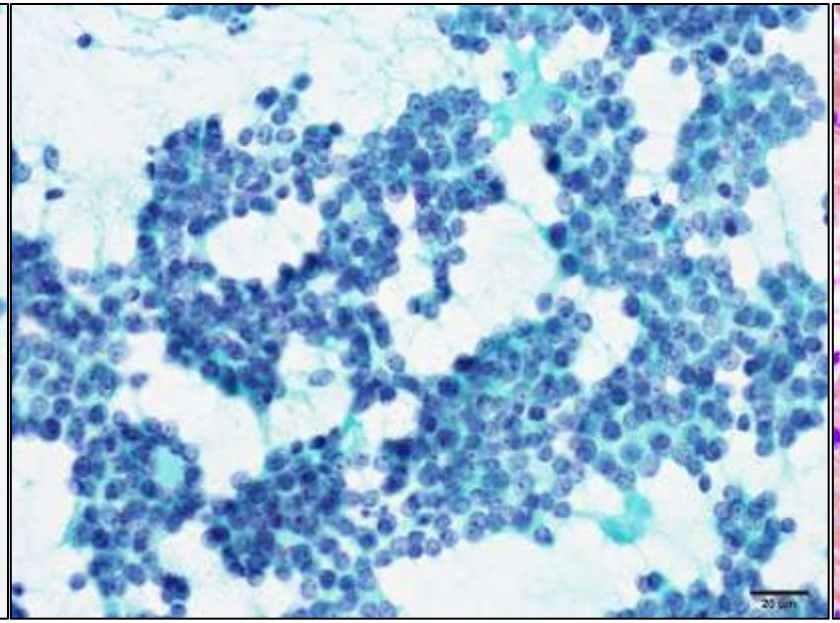


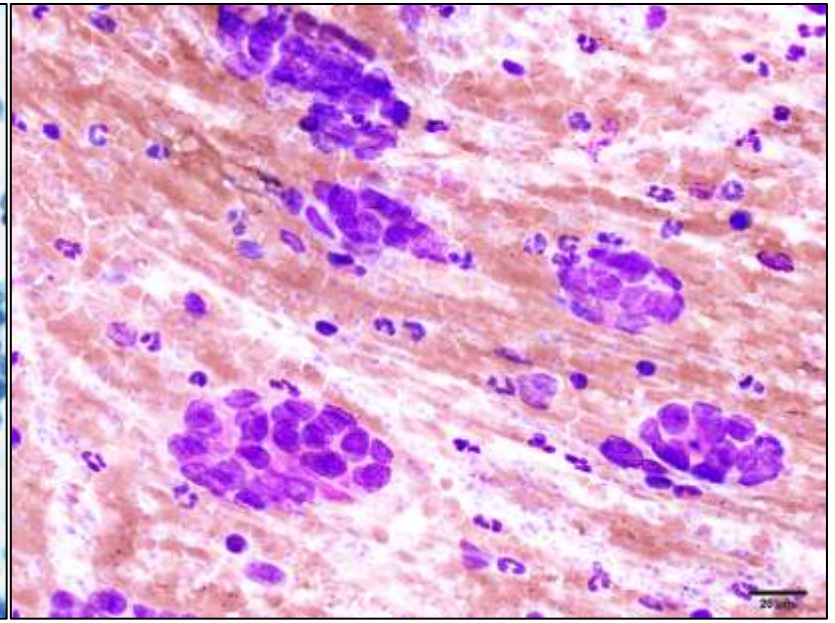




濾胞性腫瘍







乳頭癌

